

発行：2017年4月10日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦  
連絡先事務局 〒753-0221 山口市大内矢田北3丁目9-1 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083  
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

## 平成28年度（2016年）（後期）ダイジェストレポート

### 報告事項

- 10月4日～10月5日ホイプム村保健衛生セミナー実施（報告書参照）



- 10月19日～11月15日プロジェクト調整現地訪問（報告書参照）

- 10月7日～9日地域行政（森林局）職員とホイドゥア村民合同環境調査研修参加（報告書参照）

この視察は知識を源流の森林領域管理のナビゲーション村としてホイデゥアドーイナーン村へ活かす為、シャンティ山口環境調査プロジェクトが森林局（プーサーン国立公園）と協力し、ホイデゥア村人10名、国立公園の役員12名で視察研修に行きました。



アグロフォレストリー調査



谷水による灌漑施設



調査研修メンバー

- 10月25日 タイ国王陛下崩御 追悼式典 ホイプム村（Hmong族）主催



モン族の伝統儀式に沿った追悼式

（ケーンを先頭に国王陛下の遺影と共に村人全員が村中を巡り式場へ集まり参列者みなでご焼香、ご冥福をお祈りしました。）

## 現地の近況



ホイプム村家庭用ガスと処理システム（問題もなく順調に稼働している。）ホイドウア村 稲刈り風景（運搬はバイク） 下流調査



除草剤使用中カ所の土壌調査



最下流汚染地域調査



採取した水生動物

### ・11月29日～11月30日ホイドウア村保健衛生セミナー・巡回医療実施（報告書参照）



・農薬の取り扱い保管・デング熱の予防治療、対処法について



・子宮頸ガン、高血圧、糖尿病、血液中の化学物質についての教育



・保育児検診、虫歯に予防



・乳幼児母子の相談検診



・保健所スタッフ

### ・平成29年1月26日～2月8日プロジェクト調整現地訪問（報告書参照）



ホイプム村果樹林



生長したマンゴー（本年は豊作で品質も良く例年の2倍の価格で出荷できた）

・1月12日 「第6回毎日地球未来賞」受賞発表 (シャンティ山口ニュースレター第128号参照)

・2月10日～4月16日「第6回毎日地球未来賞」受賞記念国際協力活動展 (写創蔵にて)

主催：特定非営利活動法人 シャンティ山口

後援：毎日新聞社 協力：地球環境基金「のぼり旗」借用、「基金便り」、「リーフレット」の提供

開催期日：第1部 2月10日(金)～3月20日(月) 祝日開館

第2部 3月24日(金)～4月16日(日)

来場者数：1,818名

展示写真：2L～全紙 約500枚 スライドショー：200枚

展示物品：「毎日未来賞」表彰状・トロフィー・関係新聞紙面

・地球に優しい「自然循環式ecoトイレ」模型

・山岳少数民族モン族文化の書籍、民族衣装、日用品等



・2月12日 「第6回毎日地球未来賞」表彰式・受賞記念講演会出席

(シャンティ山口ニュースレター第130号参照)

・3月1日～3月27日プロジェクト調整現地訪問 (報告書参照)

ホイドウア村 地域医療チームによる保健衛生診療・歯科治療・健康相談・薬品配布など



医療チームによる受付、問診



村長との事前調整



世帯訪問聞き取り調査



世帯訪問聞き取り調査



まとめ作業(バタリン スタッフ・松浦和子保健師)  
平成28年度保健衛生調査報告書参照

## 平成28年度まとめ

### 活動地域への人々や社会に与えた影響、生じた変化

- ・農業研修や保健衛生ワークショップによる学習によりこれまで考えても、思っても、みなかったことに興味や関心を寄せ、学習の楽しさやおかれている環境を意識し始め実践活動が始まった。また知識を得ることに自分への変化が喜びとなって物事を考え行動する住民が増えてきた。
- ・地域のタイ人の村も波及効果として大きく影響が見られる。（農薬の健康への影響やトウモロコシ栽培から果樹への転換など）保健所による啓発活動に当該プロジェクトを例にセミナーを行っている。

### 活動・成果の持続性、次年度への展望、終了後の展望

- ・これからの準備に備え、基礎的な組織作りや行政との連携、村人全員の協働参加をテーマに軌道に乗ることができた。
- ・特に、「第6回毎日地球未来賞」の受賞に注目が集まりメディアに取材された回数も多く、また、「きんちゃん」のぼり旗のもとで活動報告会を開催し期間中1,800名の来場者があり好評であった。
- ・地域住民の協力の下に課題を解決しながらハンディと過酷な生活を強いられている住民を主体として協働し事業を継続する。
- ・ハンディを除去することは、できないが協議会組織活動を活発化し、克服するためのアドバイス・情報提供・直接指導など行いながら住民に寄り添い要望などに対応し、希望のもてる方向に向かって共に協働することで自立の促進を図る。
- ・地域行政との連携調査を実践することにより環境リーダー育成と行政への引き継ぎこれからも地域行政・団体との連携を主体として協働し、過酷な状況下にある地域住民の自立促進が継続できることを願う。

～環境支援募金にご協力をお願いします。～

20170410saeki